

薬だつ知識

85

家庭の残薬



国内では年間数百億円分の薬が無駄になっているともいわれる（Chart GPTで作成）

家でお薬の管理に困ったことはありませんか？「いつもらったのか、何の薬なのか分からない」「たくさん余っているけれど、いつか使えるかも」...。そんな状況ではありませんか？
大前提として、何の薬が確かでないものは使用できません。インターネットで調べることも簡単な世の中ですが、思っていた効果と違うこともあります。また、薬には使用期限があり、かつ正しい方法で保管されていなければなりません。本来使用すべき薬と混同してしまうと、適切な治療の妨げになることもあります。手持ちの薬をし

薬剤師に整理の相談を

つかりと把握することが大事です。使われずに廃棄される「残薬」は、1年間で数百億円にも達するといわれており、「医療費の無駄」として社会問題となっています。医薬品の供給が

困難になっている現状もあり、薬剤師としては廃棄はやりきれない気持ちになります。

家庭における残薬が増える理由として、「飲み忘れ」「用法、用量の誤り」「処方日数や同種薬の重複」などが挙げられます。医師や薬剤師に伝えるにいくと感じることがあるかもしれません。が、ありのままの状況を伝えていただくことはより良い治療につながります。改めて身回りのお薬について考えてみませんか。

薬剤師は薬を渡すだけでなく、その後のフォローも行っています。飲み残しなどの整理はもちろん、患者さんに合った飲み方の提案や残薬の整理、不要な薬の廃棄のお手伝いもできます。鹿児島県薬剤師会は残薬整理を助ける「おくすり整理そっだんバッグ」を配布しています。お近くの薬局にいつでも相談ください。

（鹿児島県薬剤師会理事・師玉龍一、画像も）

令和6年12月3日（火）

85 . 家庭の残薬